

## 平成27年度 第5回 市長と語ろう！ タウンミーティング 議事録

開催日時 平成27年6月29日（月） 午後7時～9時

開催場所 笠間市役所 教育棟 2-1. 2-2 会議室

参加者 34人

### 《フリーミーティング（意見交換）》

- 1 空き家バンク制度の予算について
- 2 子育て世代の医療費無料化について
- 3 市役所非正規職員の待遇改善について
- 4 出産手当について
- 5 保育士の専門的指導が受けられる施設の創出について
- 6 保育所の入園時期について
- 7 郷土愛（ボランティア）の醸成について
- 8 学校給食の食器について
- 9 給食センターの見学について
- 10 給食センターの試食について
- 11 雇用（転職支援）について
- 12 行政区名の見直しについて
- 13 プレミアム付商品券の販売方法について
- 14 観光客へのおもてなしについて
- 15 観光客の災害拠点について
- 16 若者の学ぶ場所、戻る場所について
- 17 交通渋滞（イベント期間中の芸森付近）の解消について
- 18 洗心館の石彫について
- 19 高速バス利用者の対応について
- 20 住む街、働く街の考え方について

### 1 空き家バンク制度の予算について

#### 【意見等】

空き家バンク制度が始まったと思うが、利用者が増えたことで予算がなくなってきたという話がある。他市町村から移ってくる方に対して購入費の補助、修繕費の補助を出す制度でとてもいい制度である。始まったばかりで予算が厳しい状況とはどういうことなのか。

#### 【回答】

適正に管理されている空き家と管理されていない空き家と2種類あります。管理されて

いない空き家は、ご近所に迷惑をかけないようにお願いしたいということで、取り壊しに対しての補助を出しています。こちらは県内でもトップクラスぐらいに進んでいます。

適正に管理されている空き家の状況ですが、笠間市で空き家を借りたいという希望は、約100件あります。一方で空き家を貸してもいいという人は10件程度です。貸したいというよりも、売りたいという人が多い現実があります。

当初予算では、約200万円の予算を計上していましたが、利用が増えてきたということで、予算が使われてきている状況であり、足らなければ補正予算で対応していくという考え方です。空き家を改修して、新しい方に住んでいただけるということは、地域にとって大切なことなので予算措置はしっかり対応していきたいと思っています。貸してもいいという空き家があったら、ぜひご紹介いただければと思います。市が間に入って責任を持って対応していきます。

## 2 子育て世代の医療費無料化について

### 【意見等】

人口減少の課題に関しては、若い人が住み続けていきたいという街にしないといけないと思う。例えば、子どもたちの医療費をある程度まで無料にする考えはあるか。

### 【回答】

笠間市は医療費の無料化は中学生までで、非常に充実していると思います。

## 3 市役所非正規職員の待遇改善について

### 【意見等】

市役所の非正規職員をできるだけ減らし、給与を正職員並みにしてきちんと家庭が持てるようにするなど子育てしやすい環境の整備が必要だと思う。年収が300万円未満の人たちの4.1%の人しか結婚していないというデータを見ると、安定した給与で家族を育てて行ける笠間市だったら住みたいと思ってもらえるのではないかな。

### 【回答】

いろいろな統計がありますが、給与と結婚の関係は給与が低ければ低いほど婚姻率が低いデータがあるのも事実です。非正規労働は一つの日本社会の課題になっていますが、市役所でも臨時職員の方が250人ぐらいいると思います。去年、図書館司書、看護師、保育士など技術職の賃金の見直しをしました。ただ、市役所が正職員を増やすというのは、一方で行政改革の部分と相反する部分もありますので、非常に慎重に行わなければいけないと思っています。

## 4 出産手当について

### 【意見等】

福島県大玉村は高校生まで医療費を無料にしている。3人目を出産すると数十万円の出産祝い金が出る。長野県阿智村は住民自治が盛んで予算の作成に住民が参加するという取り組みをしている。そういう話を聞いて地方創生はすごく自分の足元にあるのではないかと感じた。

### 【回答】

お子さんが2人目のときはいくら、3人目のときはいくらと支援をしている自治体も県内にもありますし、全国的にもそういう自治体があります。私はお金を支給すればいいとは思わないところが正直ありまして、お金より制度を充実していく、現金給付ではなく、いわゆる現物給付という考え方です。市としては環境にウエイトを置いていきたいと思っています。子育てしやすい環境というのは、一つだけすればいいということではなくて、いろいろな環境整備をしっかりとご意見にあったようにやっていきたいと考えています。

市全体では人口が減少していますが、友部地区は減ってなく微増しています。笠間地区は非常に落ち込みが激しい。岩間地区もある程度落ち込みが激しい。友部地区は若い人が住んでいて新しい家がどんどん建っていく。市の総体的な子育て支援の影響よりも、立地の良さ、交通の便の良さが影響していると思います。人口の定住化対策というのは地区別に色分けするわけではありませんが、友部地区に集中した方が効果的ではないかという大まかな考えで政策も進めています。ただ、子育てしやすい環境はご意見にあったとおりで、より充実していけるように進めていきたいとも思っています。

## 5 保育士の専門的指導が受けられる施設の創出について

### 【意見等】

子育て世代の母親から、1歳から幼稚園に入るまでの2、3年の間に保育士さんのいる親子教室をつくってほしいとの意見がある。有料でも良く気軽に行けるようなもので、週4回ぐらい開催してほしいと。子育て支援センター、児童館などあるが、子どもを連れて行く側としては人間関係がある。グループがその中でできていて途中から入っていくのが難しいというので、保育士さんの方に専門的な指導が受けられるようなものがあればということでお伝えしたい。

### 【回答】

友部地区は児童館、笠間地区及び岩間地区は子育て支援センターで、週三日など限定された中で行っています。笠間地区は、認定こども園が佐城小学校の跡地にできますので、子育て支援センターが移動して毎日行う予定です。おっしゃっているのは保育所に預けるのではなくて、自分で子どもを育てながら、学びの場がほしいということですね。そういうことは、前向きに取り組んでいきたいと思っています。今年から笠間公民館で親子英語教室

を始めました。1歳から2歳と親が対象ですが、思ったより人気がありまして、ご意見にあった子どもと一緒に過ごしながら、学びたいという潜在的ニーズは高いのかと私も考えましたので、工夫をして充実していきたいと思います。

## 6 保育所の入園時期について

### 【意見等】

近所の方から聞いた話で、4月から保育所に入れないと7月からでは受け入れてもらえないと言う。笠間市ではそういうことになっているのか。

### 【回答】

年度途中で空きがあれば入所はできます。ただし、保育所には定員が決められています。子どもの年齢に応じて保育士の数が決められています。通常は4月に子どもが入所しますが、その時点で定員に達してしまうと年度途中での入所は難しくなります。保育士の数が大きく影響してしまいます。

4月がすべて起点ではなくて、いつ何時でも預けられるというのはまさしくそのとおりです。入所月の問題も一つですが、定数の問題があります。笠間市は時期的なものもありますが、例えば4月の時は、定員いっぱいに入れなくても、少し経つと空きができたりします。去年もある時期に20名ぐらいの待機児童が発生しました。市としては、民間の幼稚園、保育所、認定こども園での転換を含めて定数を見直していただいて、受け皿を広げようとお願ひしていて、平成28年度からは待機児童の課題は解消できるのではないかと考えています。

## 7 郷土愛（ボランティア）の醸成について

### 【意見等】

若い人が戻ってこないとの話があったが、教育のところで郷土愛を育むような地域愛を育てられるような仕組みを作ったら面白いと思う。笠間は観光があるので、子どもたちでボランティア団体を作ると郷土愛が育まれていいと思う。

### 【回答】

郷土教育はすごく大事だと思っていて、ふるさと学習を充実していこうということで、検討しているところです。先ほど地方創生の説明の中で、英語教育事業の話があったかと思いますが、今年度から英語教育強化推進事業「ABCかさまプロジェクト」に取り組んでいるところです。

観光のことを英語で伝えたり、おもてなしの英会話ができるようにしたりすることで、英語の教育と併せて、ふるさと教育を目的に取り組んでいきます。各学校で、その地域の方と一体になって行っている活動があります。お祭り、もちつき大会なども大事にしてい

きたいと思っています。取り入れられる部分がたくさんあるかと思うので、ぜひボランティアに関しても取り入れて行きたいと思います。

笠間には歴史を学ぶところがないのが現状です。他の自治体に行くと歴史が一目でわかる場所があります。笠間にとって観光面でも必要ですし、偉人や先人たちを知ることで郷土愛につながっていくこともあります。どこかのスペースにできないか検討しています。郷土愛は非常に大切にUターンにつながることもありますから、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

## 8 学校給食の食器について

### 【意見等】

中学生の給食を見たが、笠間なので笠間焼で食べる日があってもいいのではないかと考えた。笠間焼を子どものときに印象付けられたらいいのではないかと。すぐに人口減少対策につながるとかいうことではないが、特に県外で仕事をしていると、笠間はどんなところと言われるので、焼き物や、東京の台所というような言い方ができるようになったらいいと思った。

### 【回答】

できるだけ笠間の地場のものを利用して出せるように工夫したり、笠間の郷土料理みたいなものを提供する日を設けたりしています。

落として割ってしまうと危険ということで、いな吉マークが入ったプラスチックの器を使っています。

笠間焼は、以前に検討したことがありました。費用の問題、強度の問題があり実現しませんでした。最近は強度も改善してきましたので、全部ではなくても一つぐらいは使うとか教育長を中心に検討してみたいと思います。

## 9 給食センターの見学について

### 【意見等】

給食センターの見学を申し込んだが、お断りされた。見学はできないのか。

### 【回答】

見学ができないということはありません。その日に何らかの理由があって、お断りしたのだと思います。職員の説明の不足などで正確に伝わらなかったのだと思います。ぜひ見学してもらいたいと思います。

## 11 雇用（転職支援）について

### 【意見等】

都市部に出て行った働き盛りの世代の人たちの話を聞くと、離れてみて地元笠間の良さが分かったという人が結構多い。もし仕事があれば戻ってもいいという話を聞く。戻ってきても仕事がなくは生活ができなくなるので勇気がなかなか出ないと。それから親も、帰って来なさいとは言えないということも聞く。きちんと生活ができて、ある程度やりがいのある仕事が前提だと思うのだが、転職した人などを支援する制度やハローワークと連携して情報発信することができればいいと思った。

#### 【回答】

一番は働く場の確保だと思っています。笠間には工業団地、畜産試験場の跡地に企業誘致をして雇用場の確保していこうという取組みをしています。基本的には、できるだけ知名度のあるしっかりした企業を誘致していくということが必要だと思っています。

企業を迎え入れることも必要ですが、地元にも立派な企業はたくさんあります。決して上場しているような企業ではないですが、技術的とか、特殊性とかで賃金も高水準の立派な企業があります。そういう情報を事業者の理解を得ながら、笠間から転出していった子に何らかの方法で情報提供することは必要で、それがUターンの推進にもなると思います。ご意見にあった通り、しっかり進めていきたいと思っています。

## 12 行政区名の見直しについて

#### 【意見等】

合併して10年になるのにまだまだ一つになれてないと思う。例えば、区の呼び方が、数字が区の名前になっているところや、地名が区の名前になっているところがある。将来でいいかと思うが、見直しを考えてもいいと思う。防災無線の音楽も3地区でばらばらである。子どもが大きくなったとき違いがあると不思議に思うのではないか。笠間市のプレミアム付商品券の取扱店の紹介もホームページの掲示が分かれている。ページまで分かれているのは、笠間市が一つになれていないということをすごく感じた。

#### 【回答】

便宜上で地区ごとに分けた方が分かりやすいと思って、あえて分けている場合もあります。友部地区、笠間地区、岩間地区の地区別は、すべて使わないという形は分かりやすさという意味では疑問に思いますが、できるだけ垣根は取り除いていくことは必要だと思います。

行政区の名前は愛郷心の視点から言うと、地名の方がいいと思っていますが、それを変えるには理解を得るのに時間がかかると思います。

## 13 プレミアム付商品券の販売方法について

#### 【意見等】

プレミアム付商品券は先着順ではなく各家庭に最低1冊配布した方が、効果が出るのではないか。

**【回答】**

笠間市では、本庁、支所、郵便局、商工会、観光協会、工芸の丘などいろいろなところで購入できるようにしてあります。分散はするという考え方で販売をしていきます。先着順はやむを得ないと思っていて、その分販売場所を増やしたということです。

#### 14 観光客へのおもてなしについて

**【意見等】**

水戸のアジサイまつりで茨城交通の漫遊アジサイまつりツアーに参加してきた。対応は訪問先の水戸市のそれぞれの職員で、そこに歓迎の気持ちをすごく感じた。

**【回答】**

市役所職員が直接対応するのか、役所以外が対応するのかは、やり方の問題だと思いますが、笠間であればボランティアで観光案内人が行っていますし、それぞれの施設の職員が対応するということになるかと思います。

#### 15 観光客の災害拠点について

**【意見等】**

道の駅茂木には防災館がある。何かあれば避難できるような体制をとっている。笠間だと来訪者にこのような対応はとっているのか。

**【回答】**

道の駅茂木は観光客用の拠点として使っているのだと思います。笠間でも多くの観光客が神社周辺にお越しいただきますので、井筒屋の再生を行っていく中で、受け皿づくりのようなものをできるかどうか検討しています。具体的にここが観光客の災害拠点という位置づけは今の時点ではしていません。

#### 16 若者の学ぶ場所、戻る場所について

**【意見等】**

5年前に水戸から引っ越してきた。引っ越した理由は仕事の関係で営業を担当しているため、県北、県南、県西と移動するので、常磐道と北関東道が交差し、かつ常磐線と水戸線が交差している非常に利便性のいい土地である友部を選んだ。引っ越してきた感想は、水戸と比べても非常に住民に手厚いという印象を概ね抱いている。安心して住める街、これは治安、子育て、自治の充実、雇用の問題など今までに出された意見のほかに、住んで

いる街を誇りに思えるかどうかというのが笠間に引っ越してすごく感じるようになったことである。

笠間は芸術のまちと言っているが、残念ながら高校を出た後に、更に学ぶ場所がない。雇用の問題と密接に関わってくるが、陶芸のまち、芸術のまちであるにもかかわらず、養成機関も充実していない。茨城県全体を技術の面でみて、この笠間の伸びしろは、すごくあると引っ越してから感じた。人を育てるということは非常に大事なことだと思うし、お金をばらまくことだけが地方創生なのでこ入れだとは考えられない。若い人たちの未来を考えて、学ぶ場所、戻る場所というところをぜひお考えいただければと感じた。

#### 【回答】

人材の育成、学ぶ場はおっしゃるとおり重要だと思います。笠間の特色としては、芸術、文化というものがあり、他の地域から見ると優位性があるということもあり、ここに力を入れていくのは、市としても地方創生の中では大切だと思っています。

来年4月から、茨城県の窯業指導所が陶芸大学校に変更になり、専門の教授を招き陶芸の勉強をし、卒業した後、笠間の窯元などに住みついて焼き物の活動してもらい、定住化につなげていくという取組みを県と一緒に進めています。

もう一つの笠間の特色というのは、陶芸美術館、日動美術館があります。日動美術館にご協力をいただいて中学生までは入館が無料です。素晴らしい絵がありますので、ぜひ見ていただきたいと思います。

笠間に住んで5年目ということで、笠間のいいところ、足りないところを十分ご承知いただいた中でのご貴重なご意見としますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

### 17 交通渋滞（イベント期間中の芸森付近）の解消について

#### 【意見等】

芸術の森公園の近くに住んでいる。春と秋の時期に駐車場が満車になって道路に一列に並んでいる。駐車場ができればと思う。

#### 【回答】

特に5月の連休の時の陶炎祭のときは、ご迷惑おかけしています。駐車場の数が足りないところがあります。公園以外の駐車場の確保は焼物組合が基本的に行っていますが、土地がないというところもあります。駐車場を造る必要があると思うので、いいところがあればご紹介いただければと思います。

### 18 洗心館の石彫について

#### 【意見等】

芸術の森公園で石彫展を開催した時に、アメリカのコロンバス芸術大学から世界的に有



名な石彫の教授に来ていただいて、作品を作っていただいたのを洗心館に寄付させていただいた。しかし、洗心館は、廃館になってしまった。市内の方にその石彫を戻していただくような何か働きかけができないかと思っている。

**【回答】**

洗心館にある石彫については、県の方に寄付をされたと思いますので、県の方に尋ねてみたいと思います。

## 19 高速バス利用者の対応について

**【意見等】**

東京からの高速バスで来る観光客が迷子になっている。バスを降りて芸術の森公園や陶芸美術館などどちらに行けばいいかわからない状態である。

**【回答】**

マイカーに視点をおいての観光対策という部分が強くて、バスでの観光客対策というのは確かに今まで重点を置いていなかったところだと思います。

秋葉原からバス路線が開通しまして、利用者がこのところ多くなっています。バス停から次のお店なり、施設までの足の確保はどうするのが一つの課題になっています。例えば自転車ステーションなどを作って乗り捨てできて、主な所を回れるなどの取組みをしている自治体もあるので、今後はそういうことも検討していくのも一つの案だと思っています。

## 20 住む街、働く街の考え方について

**【意見等】**

企業誘致の話もあるが、笠間に働く場所がなくても、働く場所は水戸、笠間は住む街とまちづくりの仕方を考えていったらどうかと思う。

**【回答】**

住むところと仕事先が別というのは、確かにそのとおりです。企業誘致をするのは、雇用を確保する一方で、税収の確保というのもあります。企業からすれば、その地域に進出したらその地域で何百人という雇用を確保できるかという心配が出てきているところもあります。